

九州幼稚園連合大会報告

山内六郎

大会議事

この大会が五年前最初に熊本で開かれた時は来会者も三百名にすぎなかった。しかしその後施設も増え、大会の理解も深まり、鹿児島、宮崎、大分と会を重ねて第五回大会を昨年十一月二十三、四両日福岡市立女子高校において開催したところ、九州各地の国公立より来会するもの千三百を越えるにいたった。主催者側では、最初、ごく内輪に見積って来会者八百とふんでいたが、意外の出席者を得て全く嬉しい悲鳴をあげざるを得なかった。まず開会式から始まり、型の如く、福岡県連合会を代表して山内六郎氏挨拶を述べ、知事、市長、国公立園長会長、日私幼代表の来賓祝辞、文部省その他よりの祝電の披露があり、議事に入った。議長には山内氏を推した。

①「幼稚園教諭二級免許状を得るための実務年限緩和について」―鹿児島県提案―（現在では高校卒業後資格をとるのに年数が長すぎる）②「公私立幼児施設の適正配置について」―福岡県提案―（例年どの大会でも問題になったことであるが議題とし改めて各方面の注意を喚起するため）③「大学在学中奨学資金をうけて幼稚園に勤務する教諭の奨学資金の返済を義務教育学校の教諭と同一にするよう建議するの件」―大分県提案―④「園長検定制度の設定について」―福岡県提案―（私立幼稚園で園長が急死した

ような特殊の場合に、後継者が―寺院立や教会立のような―教育経験に不足であっても、相当の学力と教育に対する識見を有している場合、園長になり得るよう特別に何らかの措置を講じて欲しい)⑤「幼稚園にも給食制の適応ができるよう申請する」(希望園に便宜がはかれるよう)―大分県提案―以上は討議の結果、あるものはさらに綿密な資料を整えた上それぞれの関係各方面に申請または陳情することに決した。

分 科 会

四つに分けて、各分科に約三百名ずつ出席し、正味三時間間わたって種々熱心に研究懇談をなし、教えられるところが多かった。

第一分科会は「幼稚園の経営と管理」で、指導者は鹿児島大学及び同付属幼稚園の黒木一男先生。議題としては「小学校との関連を如何にすべきか」「園で各教師のもつ指導力を全園に及ぼす経営法如何」「入園児選考の際の面接の具体的なよい方法について」「幼稚園教育の重要性を認識させるには如何したらよいか」「スクールバスの適否について」など、いささか多岐にわたったが、いずれも会

員がもっている問題であったため、活発な意見の開陳もあり、かつ黒木先生の当を得た指導によって、正しい幼稚園の経営及び管理のあり方について考えさせられるところが多かった。

第二分科会は「社会」で指導者は草ヶ江幼稚園長であり九大教育学部教授である関計夫先生。会場は筑紫女子高校講堂。議題は「幼年教育における(幼・小の低学年)社会性はどうしたらよいか」「幼児の自主性を培うには如何にすべきか」「小学校との関連を如何にすべきか」。この方面の著書も沢山出しておられる関先生の深い造詣から、いろいろの新しい点に出席者は多くの示唆を与えられた。

第三分科会は「自然」。指導者にははじめ福永津義先生をお願ひしていたが、突然差しつかえができ、代ってお嬢さんの高橋さやか先生(西南大児童教育科助教授で小笹幼稚園長)にやっていたいただいた。議題は「観察の環境構成について」「小学校との関連を如何にすべきか」。高橋先生は最近保育に関する多くの著書を出しておられるが、この方面における平素からのウン蓄を傾けて指導してくださったので、出席者は保育における「自然」の問題について新しく眼を開いていただいた。

第四分科会は「製作」。指導者はお茶の水女子大と同付属

幼稚園長の及川ふみ先生。議題は「幼児の造形活動における陶土の適応性について」「小学校との関連を如何にすべしか」。及川先生がこの方面の権威者であることはいうまでもなく、実際に即しての指導は裨益するところが極めて多かった。

保育参観

福岡市内の三幼稚園を見せていただいた。舞鶴幼稚園（西南大児童教育科付属）、養巴幼稚園（教会経営のもの）、赤坂幼稚園（会場である市立女子高校付設）の三園である。一つは大学付属であり、次は純然たる町の幼稚園であり、最後のものは公立的（経営主体は名目上女子高校の後援会となっているが―福岡市内に公立はない）なものであり、各々特色のある経営を行っている。その施設、設備、教育方法等について参考になる点が少くなかった。各園とも行き届いた資料を準備されていたから参観者には便利であった。

研究発表

「幼稚園児の健康管理について」（福岡幼稚園長・医学博士 田中利雄）「私の保育案をかえりみて」（大分市立南大分幼稚園教諭栗本信子）「視聴音覚教育の新分野」（吉塚幼稚園長高杉義行）。各自自己の体験と研究の蓄積を披瀝されたが時間に制限があり、もうすこし聞きたいと思ったができず残念であった。

その他の行事

この大会の記念講演は九大教授であり愛育研究所の牛島義友先生による「幼稚園と家庭の教育」と題するものであった。考慮を深く促がされた感銘深い講演であった。

前日講習は及川ふみ先生によって二十二日の午前と午後にわたり行われ、七百人の出席があった。

私立幼稚園経営者の集い。二十三日の夕、日私幼より特別に派遣された武南高志先生を囲んで百五十人の者が集い、当面の諸問題について情報や意見の交換を行い、かつ親睦をはかり極めて有意義であった。

観光は福岡市内と太宰府及びその付近の史蹟参観。県教育庁より、郷土史の大家筑紫先生が説明の労をとってくださった。また太宰府神社が種々便宜をはかってくださった。

昼食時のレクリエーションは本場の「黒田節」とそのおどり及び「博多にわか」で、うっとりしたり、おなかを抱えて笑いころげたりした。

大会宣言

この大会は満場一致で次のような宣言文を決議し各自の職場に決心を持ち帰った。

「このたび、わたしたち九州の各地にあって幼児教育にたずさわっている一千三百の同志が一堂に相会して、第五回大会を福岡市に開き、親しく幼児教育の諸問題について真摯な研究討議をすることができました。

今年のはわが国に幼稚園が創設されて満八十年、幼稚園教育が教育体系に加えられた学校教育法が制定されて満十年、また新しく幼稚園教育要領が出された年であります。こうして幼稚園教育は漸次軌道にのり、世上一般の期待もまた日に日に加わりつつあることは喜びに堪えません。

教育が国家と社会の将来を支配する最も重要な要素であり、幼児教育こそ人間形成の決定的基盤であることを思うとき、この道にたずさわるわたしたちの光榮と責任をいよいよ深く感じ、わたしたちは新たな決意を抱き、相共に携え

て、ますます教育内容の充実向上と施設設備の改善とに努力し、托された使命の達成に努めたいと期するものであります。

右宣言する。

昭和三十一年十一月二十四日

終りに

今回多くの出席者を与えられて極めて盛んな大会をもつことができたのは、第一には強力な講師や指導者の陣容を整え得たことであり、第二には園の増加と九幼連の組織が強化されたことであり、第三には福岡という地の利を得たことであると思う。しかし、それらよりも一番大きな原因は九州各地の先生方がこの会を自分たちのもとして盛り育ててきたことであると信ずる。来年は長崎で大会が開催されるはずであるが、さらに内容の充実した有意義な大会が与えられるように祈り求めずにはおられない。報告を終るにあたり、この大会のために有形無形の後援と援助の手を差し延べられた福岡県知事、福岡市長、九州大学教育学部、福岡学芸大学、西南学院大学、及びフレール館はじめ各業者の方々に特別に感謝の意を表したいと思う。